

No.260



青森県理学療法士会ニュース

平成16年度青森県理学療法士会症例検討会のご案内

学術局長 長谷川 至
研修部 佐井川匠秀

平成16年度青森県理学療法士会「症例検討会」を開催いたします。本年度より従来の「定例研修会」のスタイルを変更し、発表後のフリーディスカッションの時間を大幅に設けました。発表者による話題提供をもとに、若手・先輩理学療法士が多いに語り合える場を提供したいと存じます。

若手理学療法士は先輩理学療法士の貴重な意見を聞ける絶好の機会です。また先輩理学療法士にとっても日頃の成果や悩みを気軽に討論できる場となることと思います。つきましては発表者のみならず、若手理学療法士から先輩理学療法士まで多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

- 記 -

と き：平成16年12月5日（日）9：00～（8:30受付開始）

ところ：弘前大学医学部保健学科

参加費：500円

* この研修会は新人教育プログラムの単位認定の対象となっており、参加者には「症例検討」、発表者には「症例検討」がそれぞれ認定されます。

プログラム

各セッションの司会は未定です。

【セッション1 9:00～9:50】

ACL再建術に対する早期リハビリテーションの検討と課題（仮）

浅野 由佳美 弘前大学医学部附属病院

両下腿コンパートメント症候群の理学療法（仮）

小田桐 絵美 健生病院

膝OA術後の動作能力とそれに対する家屋改修について

～入浴動作における制限と自助具の使用～（仮）

二宮 竜司 青森慈恵会病院

【セッション2 9:55～10:55】

大腿部筋膜炎の症例（仮）

葛間 翔 なかざわスポーツクリニック

神経疾患患者の理学療法 - ALS患者 - （仮）

福原 孝子 岸原病院

脊損患者の電動車椅子制作について（仮）

藤田 由香 黎明郷リハビリテーション病院

未 定

福司 悠佳 西北中央病院

【フリーディスカッション 11:00～12:00】

【昼食 12:00～12:50】

【セッション3 12:50～13:40】

小脳梗塞を発症した右片麻痺患者の歩行訓練について（仮）

川原田 雅志 むつ病院

起立性低血圧によりADLが阻害された左被殻出血の一症例

～弾力包帯・弾力ソックスの有用性～

盛田 知佳 村上病院

脳血管障害患者の排泄動作獲得に向けて（仮）

三関 志乃 青森慈恵会病院

【セッション4 13:45～14:35】

脳血管疾患の症例（仮）

柳沢 恵 あおもり協立病院

CVAの症例（仮）

飯高 恵子 黎明郷リハビリテーション病院

CVAの症例（仮）

岩谷 奈津子 黎明郷リハビリテーション病院

【フリーディスカッション 14:40～15:40】

*参加者の方々へのご案内

会場には駐車スペースがございませんので予めご了承下さい。

昼食を挟みますが各自でご用意下さい。

*発表者の方々へのご案内

発表時間は7分、質疑時間は7分です。

発表はパソコンプロジェクター（Windows版 Power Point使用にてFD・CD・フラッシュメモリに保存したもの）、OHP、レジメ（発表原稿とは別にA4版用紙1枚程度で作成して下さい。尚、11月26日（金）までに下記連絡先にご送付頂ければ、コピーはこちらで行います。）のいずれかの方法でお願いいたします。

発表方法は11月26日（金）までにご連絡下さい。

演題未定・（仮）の方、演題に変更のある方は、11月26日（金）までにタイトルをお知らせ下さい。

発表者の受付は前日の研修会終了後、もしくは当日の朝の参加受付時に行います。

当日発表者はフリーディスカッションに必ずご参加下さい。

- 連絡先 -

芙蓉会 芙蓉会病院 理学療法室

佐井川 匠秀

〒030-0133 青森市雲谷字山吹93-1

TEL.017-738-2214 FAX.017-738-2249

E-mail fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp

～ ザンジバル奮闘記 ～

弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻 若山 佐一

4月号に掲載された海外青年協力隊員(アフリカ、タンザニア・ザンジバル島)瓜田一貴さんからザンジバル通信第2号が届きました。

今回は、現地でのどんな活動をしているのかを紹介しています。「マラリア」による高熱が原因の脳障害などアフリカならではのようですが、そのほかは日本と変わらないような対象です。

赴任1年を過ぎ、残りあと10ヶ月、この中では触れて

いませんが、現地への適応から徐々にやりたいことなどが見えてくると同時に、思うように活動できないジレンマもでてきているようです。会員の皆さんからも、瓜田君 <uritan_0715@hotmail.com>に質問あるいは励ましなど何でも結構ですから連絡してみてください。私の経験上も、異国の地では、生まれ故郷からの連絡はどんなことでもうれしいものでした。

～ ザンジバル通信 Part 2 ～

瓜田 一貴

こんにちは、久しぶりにまたザンジバルからのお便りをお届けします。前回の内容で大まかに島の雰囲気は伝わったでしょうか?! ただ今、こちらは雨季も終え、日本とは逆の冬に当る季節となっています。冬といってもさすがにほぼ赤道直下、日中の陽射しは暑く、半袖でちょうどいい位です。一時期に比べるとだいぶ暑さもやわらぎ、朝・晩は少し涼しくて、半袖だと少し肌寒く感じる時もあります。ちょうど、日本の夏の終わり頃?! といった感じでしょうか。

さて、今回からは実際の私の活動状況などを紹介したいと思います。私が通っている病院は、病床数400床のムナジモジャ病院というところで、一応殆どどの診療科があり、針治療科(ここでは中国からの医師団が活動中)やMCH(母子保健センター)などの施設もあります。またイスラム教という宗教柄、敷地内にお祈りのためのモスクまであり、この土地ならではの感があります。

ここでの活動としては、基本的に外来・入院患者の治療で、時折同僚にアドバイスしたり、逆にアドバイスしてもらいながら日々の病院業務に携わっています。また、現在は月1回となってしまった地方巡回を、ザンジバル障害者団体の方々と一緒にしています。患者状況としては、1日に延べ30～40人で、成人と小児では診察日が別れており、成人は月・水、小児は火・木となっています。疾患としては、成人は各種関節痛、腰

痛、骨折後(交通事故が多い)の関節可動域制限、脳卒中片麻痺が主です。小児は脳性麻痺(以下CP)、注射の影響によるDrop foot、先天性内反尖足、Erb's palsy、転倒・事故による骨折などです。ここでの病気の発端として1つに“マラリア”が挙げられます。というのも、CP児の既往で、マラリアにかかり、その際の高熱が原因で麻痺になったというケースが多いのです。成人でもマラリアに罹患する人は多いですが、よほどの重症なものを除く以外は、大抵こちらの人達は薬で2,3日～1週間で治るそうです。検査したらマラリアで、少し微熱が続いて、頭痛がすると言いながらもこちらの方は普通に仕事してるのです(たぶん、日本では少し風邪に罹ったくらいの勢いなのでしょう)。こちらならではの風土病に悩まされながらも、生活と決して切り離すことはできないものとして生きてきた人々は、免疫力がやっぱり違うのかなあ～と感じます。ちなみに私はこちらに来て、幸いにもまだマラリアに罹ってません。2度程38・39度の高熱を出し体調を崩したことがあるのですが、いずれもマラリアではなかったのですが原因は不明でした(もしかしたら、たまたま原虫が検出できなかっただけかもしれませんが・・・)。それ以外は、健康に過ごせており、改めて親から授かった健康体に感謝です。皆さんも体だけはくれぐれもお大事に! それではTutaonana!

訂正とお詫び

前回発行された青森県士会ニュース(NO.259)の中で訂正がありました。6 ページ目の「ザンジバル通信第 2 号」の原稿に一部不足箇所がありましたので、今回のニュースに再度載せたいと思います。その点を訂正し、お詫び致します。

百石町健康まつりの報告

10月3日(日)百石町いきいき館にて催された今年の健康まつりも、昨年同様に介護予防事業(主に転倒予防教室)の紹介と肩痛・膝痛・腰痛予防体操を主に、新たに尿失禁予防として骨盤底筋体操コーナーを掲示しました。来場者は景品目的の方も少なくない中で、個別に相談が出来た方も何人かいましたので、PTのPRにはなったのではないかと考えています。

他にリハビリテーションコーナーでは、百石町住民で構成されている自主リハビリ活動グループによるバザーが行われまして、今年も盛況だったようです。まだまだですが、障害者用乗用車の購入を達成してほしいものです。

昨年参加してくれた東北メディカル学院の学生さん4名が今年もボランティアとして参加してくれ、パソコンへのデータ入力を主に協力をして頂きました。おかげで、数年を通して実施しているSF-36(自覚的健康観)のグラフ結果を利用した健康相談を今年も実

国民健康保険百石病院 板井英樹

施出来ました。毎年参加されている方の中から、紙面結果を残しているというあたたかい御言葉を頂き、来年も継続しようと思っています。

また、学生さんにはBMI測定をお願いし、肥満予防への啓発を実践して頂きました。肥満による影響について知識をつけておくように助言をしておいたので、面接技法の演習にもなったのではないかと思います。ちなみに昨年はBMI 25の方が37%でしたが、今年は48%でした。昨年参加された方の数名は体重が減って、BMIも正常値へ近づいている方もいたので、これも継続して応援していければと考えています。

御手伝いして頂いたボランティア及び関係者の方には厚く御礼申し上げるとともに、今回の催しを来年へ繋げていきたいと思っています。来年も10月時期に行う予定ですので、健康増進アプローチに興味のある方は御声をかけて頂ければと存じます。

八戸市健康まつりの報告

八戸市民病院 田村卓也

去る、平成 16 年 9 月 26 日に八戸市健康まつりが開催されました。八戸公会堂広場において開会宣言・オープニングセレモニーで開幕した健康まつりは今年で 13 回目を迎えると聞いています。

イベントとして、健康表彰各種、健康運動指導士による健康体操、吹奏楽野外コンサート、記念講演会には歌手橋幸男さんの婦人の、橋凡子さんが「お母さんは宇宙人～心と心のふれあい～」と題して公会堂大ホールで講演されました。また、毎年好評の市民フォーラムでは、パネリストに八戸医師会や赤十字病院の医師や八戸市健康増進課の保健師などをむかえ、「市民と共に健康を考える 応援します！あなたができる健康づくり」をテーマに、会場の皆様との意見交換が行われました。

各種健康展も開かれ、医師（内科、耳鼻科、眼科、産婦人科）、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、歯科技工士、理学療法士らが関与した 30 以上のコーナーが軒を揃えて、来場されたお客さんを魅了しました。今年の総入場者数は

3532 人であり、我々が関与した理学療法のコーナーは、今回、機器を使用し「からだの若さを測ろうコーナー」 体脂肪、からだ年齢、カロリーバランスのチェック 理学療法士による個別運動指導を行いました。理学療法のコーナーへの来場者は 130 名以上で、PT10 名の対応人数としては大盛況だったのではないかと思います。特にからだ年齢測定のコナーでは、「実年齢と比較し体年齢が何歳なのか?!」と、結果が一目瞭然ということで大好評でした。

お客さま皆様からお寄せいただいたご意見と致しましては、「・良かったです。・実際に指導してもらったことがありませんでしたので、大変役に立ちました。これからは今日教えていただいたことを実践します。・広く市民の方々に知らせてください。・教わったことを続けてやります。・来て良かったです。・身近に居てほしい。他多数」と理学療法分野をさらに啓蒙していくべきと実感しました。

第681回現職者講習会 PNF基礎編 の印象記

尾野病院 佐藤 照樹

私は臨床に出てまだ二年目ですが、知識と技術ともまだまだ不足していると日々実感しながら仕事をしていました。そんな折、少しでも役に立てそうな手技を身につけようと、今回の現職者講習会に自費で参加させていただきました。

PNF 講習会は三日間に亘り行われ、一日目と二日目は PNF の概念から基本的なパターンまで、高橋先生のわかりやすい説明と実技の練習を含めながら行われました。基礎のパターンを学んでいる時に、パターンをもう理解したつもりだと勝手に思っていたのですが、それは中途半端な理解であったと恥ずかしく思いながら、受講していました。また実技練習では一つのパターンを体得するのに、用手接触や抵抗の掛け方、治療者の身体の無駄のない動かし方などいろいろと確認しながら行い、理解するまでに心身ともに疲労しました。練習では PT 同士で行っていたにも関わらず、なかなかパターン通りうまく成功することができませんで

した。患者さんにはパターンを理解させる為に、しっかりとコミュニケーションをとりながら動作を理解させることが大切であると実感しました。

最終日は患者さんを相手に治療テクニックを実演していただき、坐位姿勢の大切さとそれを基にした立ち上がりを学ぶことができ、改めて基本姿勢の大切さを実感しました。

講習を終えて実際に PNF を行ってみましたが、患者さんはなかなかパターン通りに動いてくれない事と、私が患者さんをうまく導くことができない点がこれからの課題になりました。勤めている病院は痴呆や CVA の患者さんが多いが、それでも PNF が適応する患者さんがいれば、機会を逃さずにどんどん PNF を活用していきたいと思いました。

来年には応用編を行うことになっているそうなので、ぜひ来年も参加させていただきたいと思いました。

整喜会（市民公開講座）に参加して

西北中央病院 渋谷美保

去る9月の整喜会は、私が西北中央病院に来て以来、初めて一般市民公開で行われました。参加者は、総勢約100名で、市民参加者は70名となりました。その内訳は、西北中央病院で治療や外来リハを受けている方、家族も多く参加されていました。

今回は、弘前大学医学部附属病院 老年医学科 浦田幸朋先生による「関節リウマチの薬物療法について」というテーマで行われました。西北五地区の病院には、RA 専門の医師が常勤ではないため、是非この機会に！と市民から質問の声が多く聞かれました。その多くは、ウン万円するという生物製剤「レミケード」に集中し、やはりその薬効に注目が集まりました。その薬効というのは、RA を火山に例えて（先生の発表では図示されていて、とても分かりやすい説明でした）、噴火する前、マグマに直接効くというものでした。ただ、リウマチ認定医しか処方できないということ、その高額さから、参加していた方からのため息が会場に響きました。また、参加していた患者や家族の方が、熱心に聴いて勉強している姿が印

象的でした。

今回に限りませんが、こういった勉強会に参加すると感じるがあります。それは、医学（医学以外もですが）というものは日々進化しているということです。そして、治療方法も変化していきます。この間まで、当然なもののように考えられていたことが、そうではないことに変わること往々にしてあります。理学療法も同じで、その変化にアンテナをはり、どんどん更新していく必要があります。時に、学ぶ事の多さに面食らうこともあります。こういった勉強は、「日々の理学療法ヒント」になると思います。

さて、話を戻しますが、今回の整喜会はいつもとは違って、RA の薬物療法についてのニュースと、患者の声とを同時に聴くことのできるものでした。仕事が終わってからでは大変かと思いますが、是非皆さんも、奇数月の第3水曜日、整喜会（in 五所川原）に参加してみたいかでしょうか？

尚、次回の詳しいテーマについては、追って連絡します（現在のところ未定です）。

= 協会介護保険部のアンケート調査の件について =

社会局保険制度対策班 板井 英樹

《依頼を引き受けてくれた士会の皆様へ》

国庫補助事業調査として、『要介護高齢者の「起き上がり」「立ち上がり」能力と自己効力を高めるケアに関する調査』の依頼がありましたが、暖かく引き受けて下さった士会の方々に厚く御礼申し上げます。

後日調査内容等は、協会保険部より、平成16年11月20日に郵送するとのことです。

同年12月10日を回収の締め切りとしているとのことで、宜しくお願いします。

質問等ありましたら、ご連絡よろしく申し上げます。

国民健康保険百石病院 リハビリテーション科 板井 英樹
TEL 0178-52-3111 FAX 0178-52-3110 E-mail: ex0178@hi-net.ne.jp

百石病院 リハビリテーション科
= 理学療法士 板井 英樹 =

第11回青森リウマチ・ケア研究会（八戸地区）のご案内

日 時：平成16年11月27日（土）13:30～16:30

場 所：青森厚生年金休暇センターウェルサンピア八戸 白神の間

〒039-1111 八戸市東白山台1-1-1 TEL0178-23-5151

プログラム：13:30～14:50 特別講演「関節リウマチに対する最新の薬物治療を中心に」

1. 「基本的な薬物治療について」

講 師；鈴木 仁 先生（公立七戸病院医療局長）

2. 「生物製剤について～使用経験を中心に～」

講 師；浦田 幸朋 先生（弘前大学老年科助手）

14:50～15:00 休憩

（リウマチ体操；なかざわ整形外科リハビリテーションクリニック
理学療法士 山根輝雄 先生）

15:00～16:30 パネルディスカッション

パネリスト；浦田幸朋 先生（弘前大学老年科助手）

鈴木 仁 先生（公立七戸病院医療局長）

中澤成史 先生（なかざわ整形外科リハビリテーション
クリニック理事長）

村井千尋 先生（村井内科クリニック）

参加費：無料

この研究会は、新人教育プログラム「トピックス . . .」、および「生涯学習基礎プログラム」の単位認定の対象となります。

標記テーマ以外への読み替えについては、下記までご相談ください。

出張用公文書が必要な方は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：

〒036-8564 弘前市本町66-1

弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻内

長谷川 至

TEL&FAX 0172-39-5981 E-mail：pthase@cc.hirosaki-u.ac.jp

学習会のお知らせ

日 時： 平成 16 年度 11 月 14 日(日) 午後 1 時～
場 所： 青森労災病院大会議室
テーマ： 足関節捻挫の治療と後療法
講 師： 岡村 良久(青森労災病院)
参加費： 無料(参加自由)
主 催：スポーツ部会三八ブロック
尚スポーツ部会主催の学習会のため、新人教育プログラムな
どの単位には認定されません。ご了承ください。

問合せ先
三沢市立病院 リハビリテーション科
村上 三四郎
T E L : 0176-53-2161(内線 321) F A X : 0176-52-6023

平成16年度第3回研修会

日 時：平成 16 年 12 月 4 日(土)
場 所：弘前大学医学部保健学科 第 21 講義室(講義室変更の可能性有り)
時 間：14:00 ~ 17:10(受付：13:30 ~ 14:00)
参 加 費：500 円(1 テーマにつき)
テ - マ：1.「高齢者に対するレクリエーションのあり方」(地域リハ)
講師；佐近 慎平 先生
(仙台医療福祉専門学校福祉学科，福祉レクリエーションワーカー)
2.「足関節捻挫の評価と治療のポイント」(専門領域)
講師；スポーツ理学療法部(上十三・三八ブロック担当)
テーマの順番・時間につきましては、11/20 頃までには決定する予定ですので、
あらためてお問い合わせ下さい。

「新人教育プログラム」および「生涯学習基礎プログラム」の単位認定の対象となります。尚、単位認定が必要な方は、生涯学習手帳を必ず持参し、該当欄に必要事項を記入した上で押印を受けてください。

標記テーマ以外への読み替えについては、下記までご相談ください。

出張用公文書が必要な方は下記までお問い合わせ下さい。

学術局問い合わせ先：
弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻
長谷川 至
TEL&FAX 0172-39-5981 E-mail：pthase@cc.hirosaki-u.ac.jp

【第3回青森県理学療法士会研修会抄録】

『高齢者に対するレクリエーションのあり方』

仙台医療福祉専門学校福祉学科 福祉レクリエーションワーカー 佐近 慎平

昨今、「レクリエーション：Rec」という言葉が、様々な専門職で使われるようになりました。本来レクリエーションは、「建設的情緒（プラスの感情）」を指す言葉であり、その本質理解の普及にはまだまだ時間がかかりそうです。

現在日本でのレクリエーションの方向性は、

総合型地域スポーツクラブの普及による、生涯スポーツ・学習者層の増加。

学校教育への活用方法。

介護福祉・社会福祉分野でのレクリエーション活動援助の研究。

医療分野での治療への貢献方法。

などが考えられ、本研修会では、医療分野への活用方法をメインテーマに、特に隣接する専門職である理学療法士との連携を共に考えたいと思います。

アメリカで発展しました「セラピューティック・レクリエーション：TR」を基礎にしています、日本の民間認定資格「福祉レクリエーション・ワーカー」のレク・ワークの手法、事例紹介等を通して、参加者の皆様と共に「治療に貢献するレク・ワーク」の可能性を探りたいと思います。決して難しいことではなく、疾病障害に抑制されていても、条件を整えば、個々人にレクリエーション欲求は発生します。

ご本人本位のレクリエーション活動が治療に役立つ！？根拠のある「レク・ワーク」で、利用者様、患者様、ご家族様、更には取り巻く我々スタッフにも、自然なレクリエーションを誘発し、レクリエーションのある施設・病院での生活を考えてみませんか？

佐近先生への質問を受け付けております。研修会当日に参加できない方でもかまいません。回答は、研修会の中で行う他、ニュースへの掲載も致します。なお、質問者の氏名、所属は非公開としますので、レクリエーション活動に対する疑問や悩みについて、学術局まで遠慮なくお寄せ下さい。

第26回臨床歩行分析研究会定例会プログラム

テーマ

「歩行分析のさらなる展開をめざして」

1. 会 期 平成 16 年 11 月 14 日 (日)
2. 会 場 青森県立保健大学 講堂
〒 030-8505 青森県青森市浜館間瀬 58-1
Tel : 017-765-2000 (代表)
3. 会 長 福田道隆 (青森県立保健大学)
4. 参加費 (当日会場にて徴収いたします)
会員 5,000 円、非会員 6,000 円、学生 1,000 円
5. プログラム
 - 8:30 ~ 受付開始
 - 9:30 ~ 一般演題
 - 11:00 ~ 特別講演
「運動制御と運動学習の脳内メカニズム」
講師 蔵田 潔先生
(弘前大学医学部医学科生理学第二講座教授)
座長 福田道隆 (青森県立保健大学)
 - 13:00 ~ シンポジウム
「歩行分析セミナーの現場での実践応用」
座長 山本澄子 (国際医療福祉大学)
シンポジスト
医師の立場から
小原和宏 (旭川医科大学)
公設試エンジニアの立場から
宮脇和人 (秋田県工業技術センター)
企業エンジニアの立場から
刈谷健司 (住友林業)
理学療法士の立場から
櫻井愛子 (昭和大学)
義肢装具士の立場から
飯塚 尚 (東名ブレース)
基調報告者
講師の立場から
江原義弘 (新潟医療福祉大学)
ポスター展示 (セミナーでの 3 次元動作解析装置を用いた運動解析例を多数公開)
* ポスターは終日展示
 - 14:45 ~ 一般演題
* 企業展示とデモンストレーションは終日開催
6. 事務局
〒 030-8505 青森県青森市浜館間瀬 58-1
青森県立保健大学理学療法学科内 (佐藤、前野)
Tel:017-765-2098、Fax:017-765-2099
E-mail:s_sato@auhw.ac.jp

映画「ウィニング・パス」上映会開催について

1. 目的

交通事故による障害を「車いすバスケ」を通じて克服し自立していく姿を描いた「ウィニング・パス」を上映し、県民の障害に対する正しい理解と障害者スポーツへの関心をいっそう高めることにより、障害者のスポーツ活動を含めた幅広い社会参加活動の一層の促進を図ることを目的とする。

2. 主催

特定非営利活動法人青森県障害者スポーツ協会

3. 作品概要

厚生労働省推薦、文部科学省選定、日本PTA全国協議会推薦

映画「ウィニング・パス」 上映時間：108分 カラービスタサイズ

監督：中田新一 音楽：千住明

出演：主演 松本ケンイチ（むつ市出身）

ほかオーディションで選ばれた高校生など多数

内容

ある日バイク事故により、脊髄損傷で下半身不随となった高校生・健太が、ひとつの「自由」を失いながらも現実を受け入れ、生きる希望を取り戻しにくい再起の姿を、車いすバスケットに賭ける高校生の青春群像としてさわやかに描きだしています。

4. 試写会開催日程

10月22日金曜日 午後6時30分から
青森市「県民福祉プラザ」4F 大ホール

5. 上映会日程（予定）

青森市 「県民福祉プラザ」4F 大ホール 017-723-1391

11月22日（月）18:30～

23日（火）13:30～ 16:30～（3回上映）

弘前市 駅前市民ホール 弘前市大字駅前9-20 ダイエー4F 0172-34-1112

12月4日（土） 13:00～ 15:00～ 18:00～（3回上映）

八戸市 総合福祉会館 八戸市根城八丁目8-155 0178-47-1651

12月19日（日） 13:00～ 15:00～ 18:00～（3回上映）

6. 鑑賞料金

大人・大学生前売り券 1,200円（当日券 1,400円）

小・中・高前売り券 800円（当日券 1,000円）

（注）学校・施設等のグループの引率等に配慮して、7枚以上購入された場合は、7枚に区切って1枚を無料とします。（例：4枚購入の場合は、2枚が無料となります。）

尚、現在3会場で行われる各地区の担当者がまだ決まっておりません。チケットの取次ぎ等の問い合わせは、県土会事務局もしくは理事、最寄りの役員へとお願ひします。

忘年会のお知らせ

厚生部 藤田俊文

平成 16 年 12 月 4 日(土)の青森県理学療法士会症例検討会が行われた後に、毎年恒例の忘年会を開催いたします。開催地は弘前市となっておりますが、場所(鍛冶町を予定)・時間・会費は未定です。決まり次第、連絡網にてお知らせいたします。お手数ですが、出席予定の方は、施設名、参加者氏名を E メール、電話、FAX のいずれかで黎明郷リハビリテーション病院藤田まで御連絡下さい。多数の会員のご参加をお待ちしております。

〒 038-0194 青森県南津軽郡碓ヶ関村大字碓ヶ関字湯向川添 30 番地

T E L 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail : reimeipt@h7.dion.ne.jp (リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

【財務部通信】

会費自動引き落とし者へ

平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われました。下記へ振り込みをお願いします。
小笠原博治、白石 茂雄、中村 正直、柳 郁子、大塚 聖子、浅野由佳美
桜庭 麗香、菊池 宏充、山下奈津子

会費自動引き落とし以外者へ

下記へ振り込みをお願いします(10月25日現在)

石川 孝幸、澤田 隆憲、栗林 輝生、柳谷 誠、奈良 剛、中野のぞみ
館山 智格、小山田 香、樋口亜絹子、三浦 純子、盛田 寛明、一戸 尚美
岩井 和広、大久保千明、塩崎 美子、伊藤紗岐子、佐々木千賀子
李 相潤(12,000円のみ)

会費納入方法は下記の通りです。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店 番 0 2 4 口座番号 0 1 1 7 0 1 3
名 義 名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 0 0 1 3 0 - 3 - 7 8 6 4 2
加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

通信欄に

記入例 [平成 16 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692] 協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい(昨年、連絡を下さった施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても 6 月 15 日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい(振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 黒石病院リハビリテーション科

佐藤 洋

TEL 0172-52-2121(217)

【ニュース編集部通信】

今回の原稿締切は、平成16年11月25日(木曜日)です。
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に
フロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付して下さい。

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：工藤 寛教（あおもり協立病院）

〒030-0852 青森市大野前田 103-2 TEL 017-762-5500 FAX 017-729-3260

E-mail : kyoritsu@aomori-h-coop.com

(病院全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山 10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail : ptsilver4000@yahoo.co.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添 30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail : reimeipt@h7.dion.ne.jp

(リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要)

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢 3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail : pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）

須藤 宗（あすなる学園）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部(HP 担当)；安田 友久（青森労災病院）

編集後記

朝夕の寒さが日増しに厳しくなってきましたが、皆さん体調は大丈夫ですか？今年には異常に暑い夏、異常に頻発する台風と気候が厳しいので、今年の冬は...と心配しています。私事ですが、毎日片道 20 kmの通勤に嫌気がさして、冬が来る前に一人暮らしをしようと重い腰上げかけているところです。東京での部屋探し異常に苦戦して、地元八戸も意外に広いと頭を悩ませている毎日です。

(文責：川口)

奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216

南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp